

## 第一次大戦時の英米 “シヨック委員会” とその周辺

栗本宗治

ロンドンのベイリスとボストンのキャノンなどのシヨックに関する共同研究は、実験ならびに臨床経験をもとに報告書にまとめられた。

クリーブランドではクライル（一八九九）、ウィガース（一九五〇）などの研究がある。

心拍出量測定を用いての研究はハリソンとブレロックのグループが行った（一九二七）。

以上を考察する。

（西宮市）

## 第二次世界大戦末期のルソン島における日本陸軍の衛生状況と米軍の人道的行為

守屋正

一九四五年九月、十月頃の終戦直後のルソン島における日本陸軍の高度の栄養失調患者の実態と病院風景、その他を供覧する。フィリピン戦線においては約六十万人の将兵は約十万人に減少した。原因は敵弾にもよるが、主として飢餓とマラリアなどに因る。栄養失調患者は、い、瘦型と浮腫型とある。後者の方が予後が悪い。

米軍はマニラ南方のモンテンルパのニュービリビッド刑務所内に臨時に、第一七四兵站病院を日本軍将兵、一般邦人のために開設した。治療は主として日本軍の衛生要員が担当した。一九四五年九月から十一月初頃までが最も死亡率が高く、約四千五百名が死亡した。

初代院長テオドル・L・ブリス中佐（メイヨー・クリニッ